研究概要報告書【音楽振興部門】

研究題目	幼稚園・保育所・家庭において幼児が親しんでいる音楽の分析 －童謡・唱歌離れ現象をめぐって－	報告書作成者	水野　智美
研究従事者	水野　智美		
研究目的	童謡や唱歌は、これまで長く歌い継いがれてきた伝承文芸であり、日本文化の一部分である。しかし、最近では、子どもたちが童謡や唱歌をあまり知らないことが世間で話題になることが多い。それだけでなく、若い保育者も童謡や唱歌を詳しく知らず、保育の中で歌われる童謡や唱歌のレパートリーが少なくなっていることを保育者養成校の教員やベテラン保育者から聞く機会が増えてきた。 同様のことが童話や昔話にも言える。これまでに、水野・徳田(2012)は、1990 年、2000 年、2010 年と 20 年間に渡って、幼児をもつ保護者に対して家庭でどの程度、童話や昔話にふれる機会があるのか、また幼児は童話や昔話に関してどの程度の知識があるのかを調査している。その結果、1990 年からの 2000 年までの 10 年では童話や昔話に関する幼児の知識が急激に減少し、2000 年から 2010 年の 10 年間では年少児や年中児を中心にさらに少なくなることが確認されている。また、童話や昔話に関する母親の熟知度は 1990 年から 20 年間でほとんど変化がなかったが、子どもに話をする機会が 1990 年から 2000 年、2000 年から 2010 年と経年的に減少しており、これまでは親から子へと語り継がれていた童話や昔話が、現在では親は知っていても子どもに語り継いでおらず、世代間での伝達がなされていないことが明らかになった。 現代の幼児はディズニー映画の挿入歌やテレビ番組の主題歌、流行歌など多くの楽曲に親しんでいる。幼稚園・保育所の発表会でミュージカル劇を行うことも多い。新しい楽曲に触れ合うことの重要性はあるが、一方で、日本文化としての童謡・唱歌の大切さも忘れてはならない。この状況を放置していては、日本人の多くが、主な童謡・唱歌さえも歌えなくなってしまう。 そこで、現在の幼稚園や保育所、家庭において、幼児はどのような歌を歌い、またどんな楽曲を演奏しているのか、保育者や保護者は童謡や唱歌をどの程度、知っているのか、子どもに歌っているのか、子どもはどの程度、知っているのかなどについて確認し、いわゆる「童話・昔話の絵本離れ現象」と同様の「童謡・唱歌離れ現象」が生じているのかどうか、またなぜそのような現象が起こっているのかを明らかにしたいと考えた。		

研究内容	研究は、①保育者に対する質問紙調査、②幼児を持つ保護者に対する質問紙調査、③幼児に対する直接面接調査で構成されている。 【①保育者に対する質問紙調査】 (1)目的:保育者は、どの程度童謡や唱歌を知っており、日常の保育活動にそれらを取り入れているのかなどを明らかにする。 (2)方法 1)調査対象者:保育者を対象にした研修会に参加し、担任を持っている保育者 620 名に調査を依頼し、432 名から回答を得た(回収率 70%)。そのうち、回答に不備のあるものを除き、397 名の回答を分析対象とした。 2)調査手続き:筆者らが講師を務める保育者を対象にした研修会において、調査を依頼し、承諾を得た者に対して、無記名の自記式の質問紙と返信用封筒を配布し、回答後に投函するように依頼した。調査時期は、2015 年 7 月～8 月であった。 【②保護者に対する質問紙調査】 (1)目的:保護者は、どの程度童謡や唱歌を知っており、日常生活の中で子どもに歌っているのかなどを明らかにする。 (2)方法 1)調査対象者:幼児を持つ保護者 650 名を対象に調査を行い、423 名(回収率 65%)から回答を得た。そのうち、不備があるものを除き、384 名の回答を分析対象とした。 2)調査手続き:各幼稚園、保育所に調査を依頼し、担任保育者を通して、無記名の自記式の質問紙と回答を入れる封筒をクラスの子どもに配布してもらい、回答後に各幼稚園、保育所の回収箱に入れるように依頼した。回答の回収後に、各園から筆者に一括して返送してもらった。調査時期は、2015 年 11 月～12 月であった。 【③幼児に対する直接面接調査】 (1)目的:幼児は、どの程度童謡や唱歌を知っているのか、日常でどのような歌を歌っているのかを明らかにする。 (2)方法 1)調査対象者:幼稚園、保育所に通う 3 歳(年少)以上クラスの子ども 210 名とその保護者 2)調査手続き:保護者を対象にした子育て講演会において、調査に協力してもらえる親子を募集し、調査可能と答えた親子に対して、後日、調査場所に来てもらった。そこで、個々の子どもに童謡や唱歌を聞かせて、知っている歌を歌ってもらった。また、親子に対して、最近、日常で歌っている歌を回答してもらった。調査時期は、2016 年 2 月～3 月であった。

研究のポイント	保育者および幼児を持つ保護者に対する質問紙調査と幼児に対する直接面接調査を行った。それぞれの調査の中で、保育者と保護者はどの程度の童謡や唱歌を歌えるのかを分析した。また、子どもがどの程度その歌を知っているのかを明らかにした。分析対象にした童謡・唱歌は1965年以前(調査時点において、50年前)に作詞、作曲された創作童謡あるいは唱歌のうちの30曲である。 保育者や保護者の童謡や唱歌の認知度等を年代で分析することにより、年代によってどのような歌がどの程度知られているのか、歌い継がれている、あるいは歌い継がれなくなっているのかを明らかにした。また、子どもはどの程度、童謡・唱歌を知っているのか、家庭ではどのような歌を歌っているのかを明らかにすることによって、「童謡・唱歌離れ現象」がどのように起きているのかを確認した。
研究結果	40歳以上の保育者は選曲された30曲のうちのすべてにおいて7割以上が歌うことができると答えていた(図1)。7割以上が歌うことができる曲は、30歳代では28曲、20歳代では26曲と減少した。過去2, 3年の間に保育活動の中で歌ったことがあるかどうかを尋ねたところ、どの年代においても、7割以下しか歌った経験がない歌が半数であった(図2)。20年以上の保育経験者(52名)を対象に、日本に古くからある童謡や唱歌を保育の中で歌わなくなってきた理由を尋ねたところ(表1)、「新しい歌が次々に出てくるため、そちらの歌に関心が向く」「若い保育者が古くからある童謡を知らない」「古くからある歌には子どもになじみのない言葉が使われている」と答える者が多かった。 保護者が歌える割合が7割に満たない曲は20歳代で8曲、30歳代で2曲、40歳以上で3曲であり、保育者と童謡に、保護者も20歳代の方が30歳代や40歳以上よりも童謡や唱歌を知らない傾向があることを確認した(図3)。 ただし、子どもに歌った経験の割合を見ると、7割に満たない曲は20歳代12曲、30歳代12曲、40歳以上9曲であり、年代によってあまり差がなかった(図4)。30歳代や40歳以上の保護者の結果に示されるように、保護者自身は歌えるが子どもに歌っていない曲が目立った。子どもに童謡や唱歌を聞かせたいと思うかを尋ねたところ、「非常にそう思う」と「ややそう思う」と答えた割合は40歳以上で97%であったが、20歳代は85%と減少していた。 子どもが知っている歌の上位は、保育者や保護者が子どもに歌った割合の高い歌であった(図5)。子どもが知っている割合の低い「たきび」「故郷」「スズメの学校」「赤い靴」「春の小川」は、若い保育者が子どもたちに歌った経験が少なく、かつ20歳代、30歳代の保護者も子どもに歌った経験が少ないものであった。最近、家で歌った歌を尋ねたところ、67%がアニメや戦隊シリーズで使用される歌(ドラえもん、アンパンマン、プリキュア、ちびまる子ちゃん、アナと雪の女王、となりのトトロなど)であり、童謡は61%であった。
今後の課題	保育者も保護者も、年齢が若いほど童謡や唱歌を知っている割合が減り、子どもに歌う割合も少ないことがわかった。このことから、今後、さらに童謡・唱歌離れ現象がみられることが予想される。新しい楽曲が次々に登場する中で、どのような童謡・唱歌を残していく必要があるのか、新しい楽曲と古くから歌い継がれる童謡・唱歌をどの程度のバランスで子どもに伝えればよいのかについて、明らかにしていく必要がある。そのために、子どもがどのような歌を好むのか、子どもの歌の好みは、保育者や保護者の教え方や環境によるのか、童謡・唱歌には子どもの発達にどのような効果があるのかについて明らかにしていきたい。

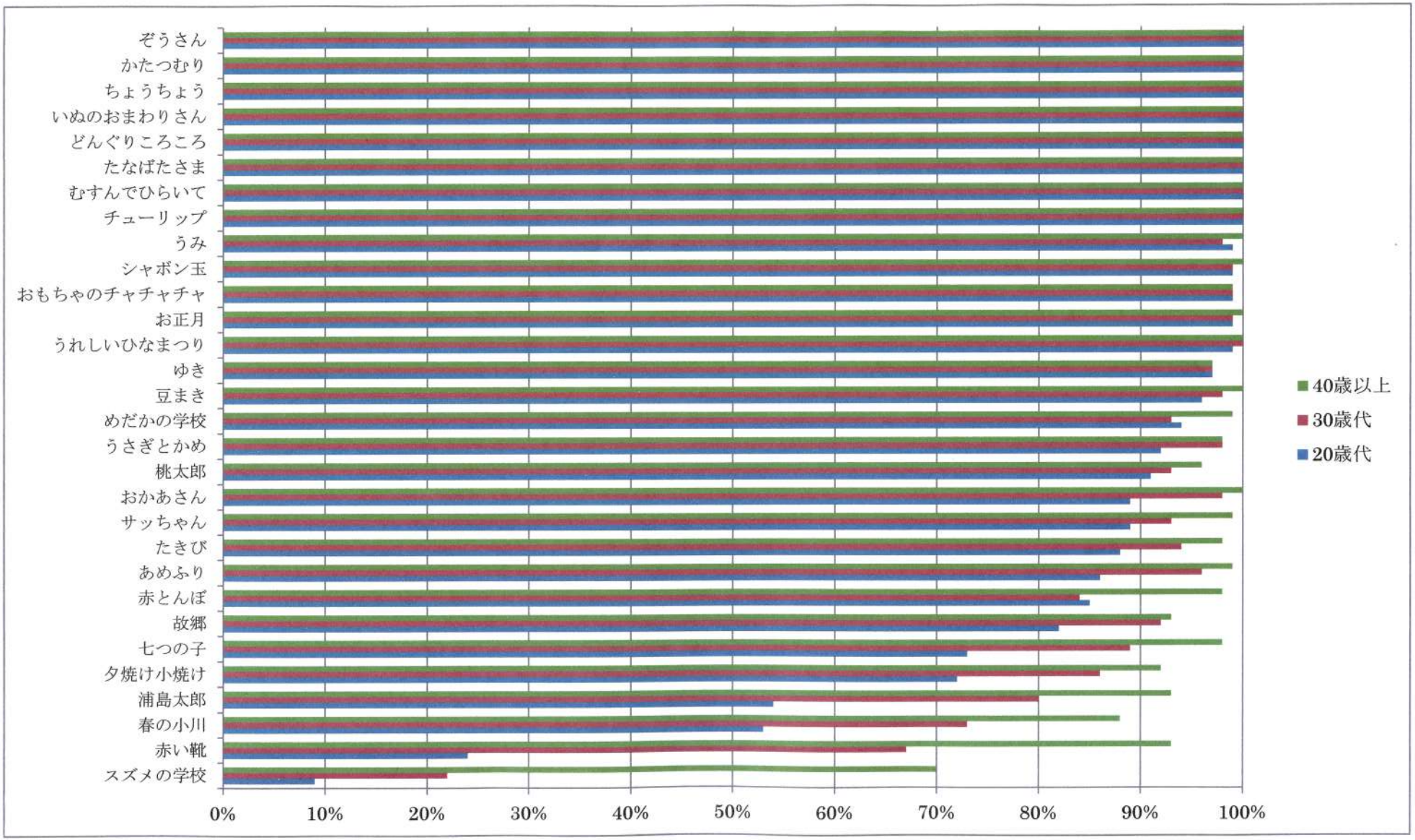

図 1. 年代別に見る保育者の童謡・唱歌を歌える割合

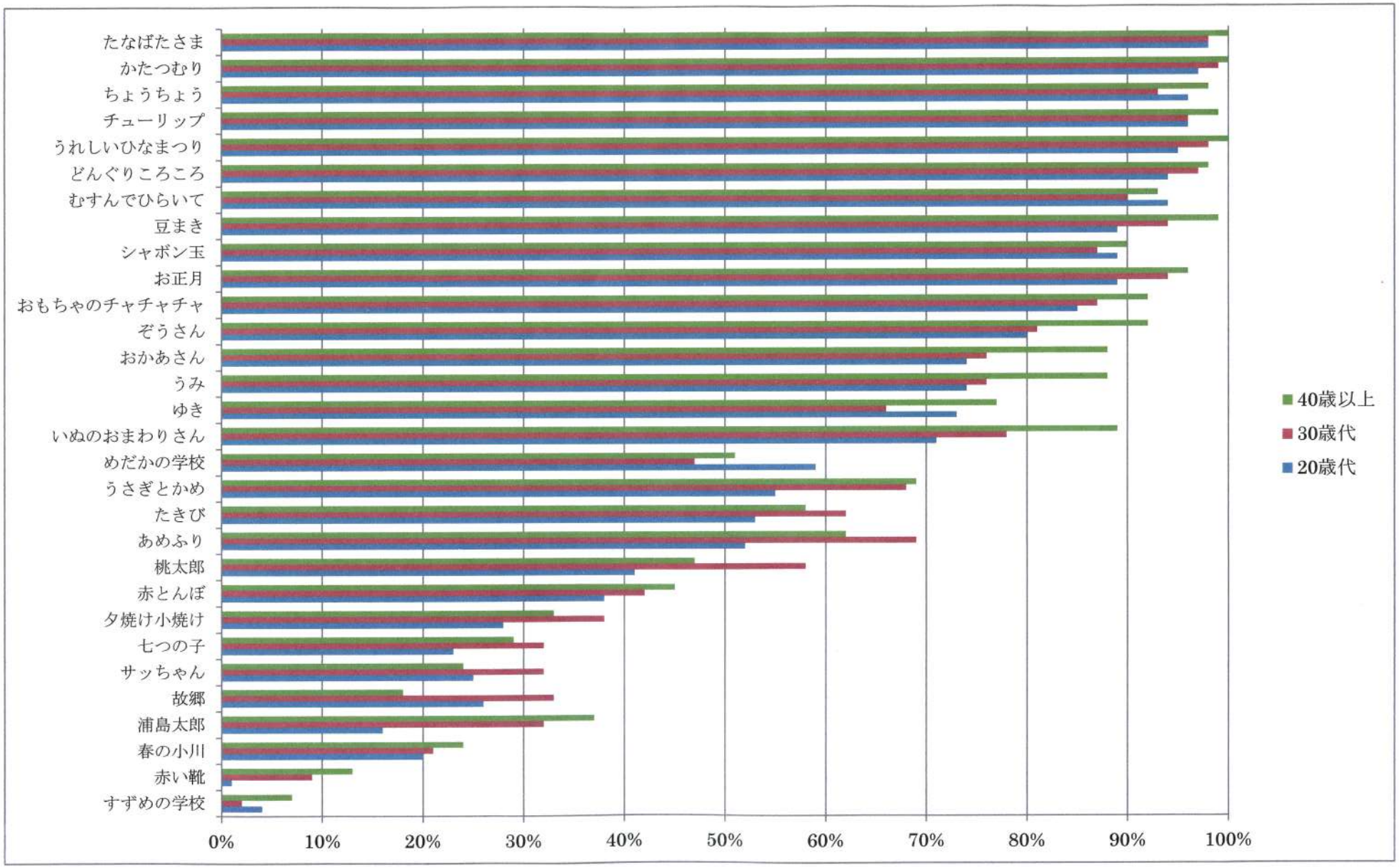

図 2.年代別にみる保育者の過去 2～3 年の間に子どもに歌った経験がある割合

表 1. ベテラン保育者が考える保育の場で童謡や唱歌が歌われなくなってきた理由

新しい歌が次々に出てくるため、そちらの歌に関心が向く	71%(25 名)
若い保育者が古くからある童謡を知らない	66%(23 名)
古くからある歌には子どもになじみのない言葉が使われている	54%(19 名)
古くからある歌は、今の子どものリズムに合わない	11%(4 名)
子どもが歌いたがらない	9%(3 名)
その他	11%(3 名)

(%の母数は保育経験が 20 年以上の 52 名)

表 2. 保育者が保育活動の中で歌を取り入れる際に重視する事項

	20 歳代	30 歳代	40 歳以上	F 値
行事(ひなまつり、たなばたなど)に関連している	4.88	4.93	4.85	1.26
季節感がある	4.82	4.83	4.76	0.70
多くの子どもから歌いたいという要望がある	3.98	4.07	3.79	2.47
リズムがよい	3.87	4.12	4.04	3.92*
あなた自身が好きな歌である	3.85	4.11	3.74	4.93**
身体を動かしながら歌うことができる	3.84	4.00	3.83	1.33
伴奏がひきやすい	3.52	3.40	3.44	0.36
家庭で保護者や祖父母と一緒に歌える	3.47	3.83	3.67	5.48**
日本に古くから伝わる歌である	3.30	3.57	3.57	4.02*
幼児用の教育番組で頻繁に取り上げられている(おかあさんといっしょ、みんなのうたなど)	3.25	3.55	3.37	3.45
定番のアニメの歌である(アンパンマン、ミッキーマウスなど)	2.94	3.14	3.11	1.50
最近、流行している歌謡曲である	2.80	2.85	2.80	0.08
最近、子どもの間で流行っているアニメや戦隊シリーズで使われている歌である(妖怪ウォッチ、トッキュウジャー、プリキュアなど)	2.61	2.86	2.61	1.66

**: $p<0.01$、*: $p<0.05$

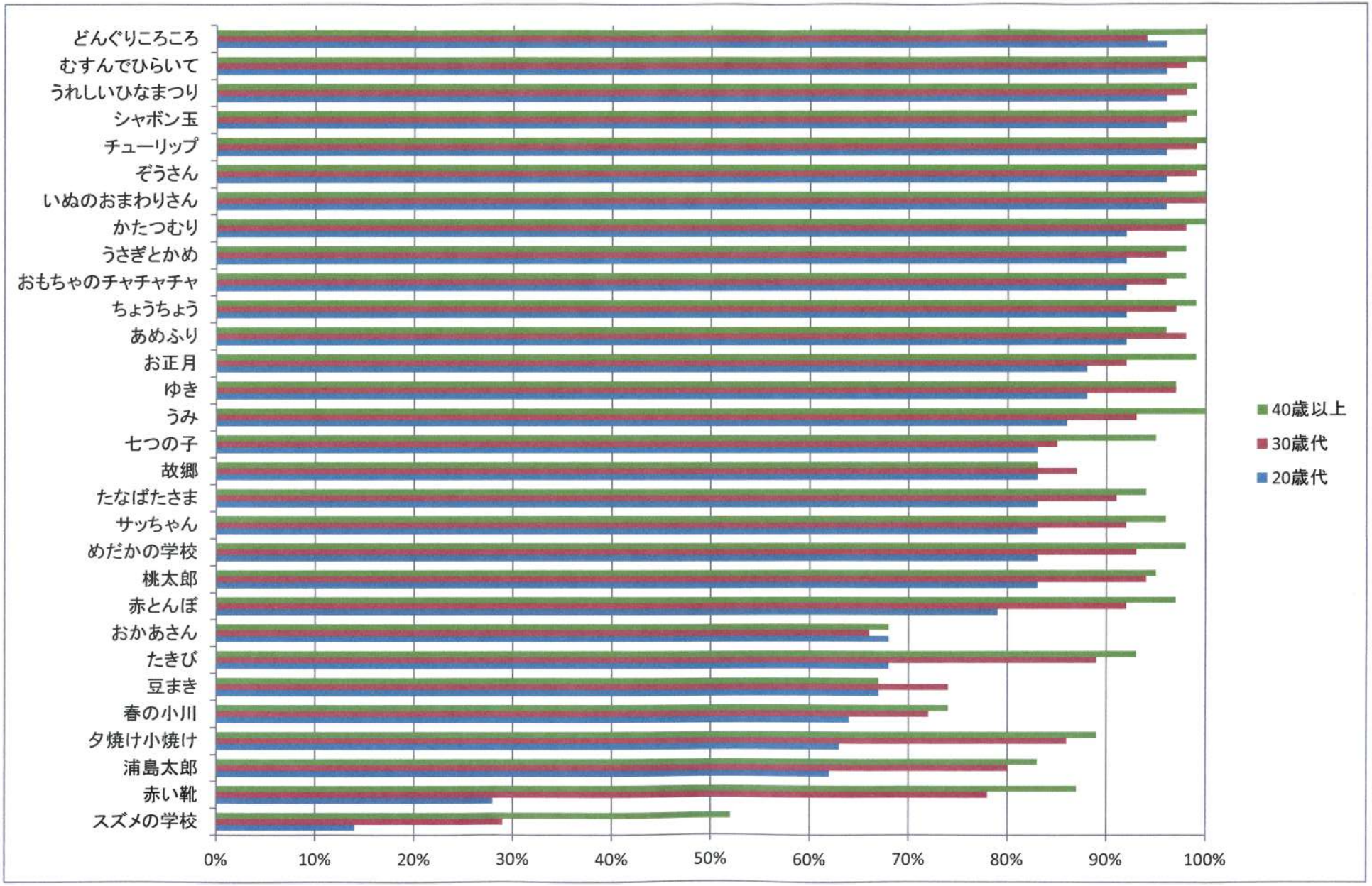

図 3. 年代別に見る保護者の童謡・唱歌を歌える割合

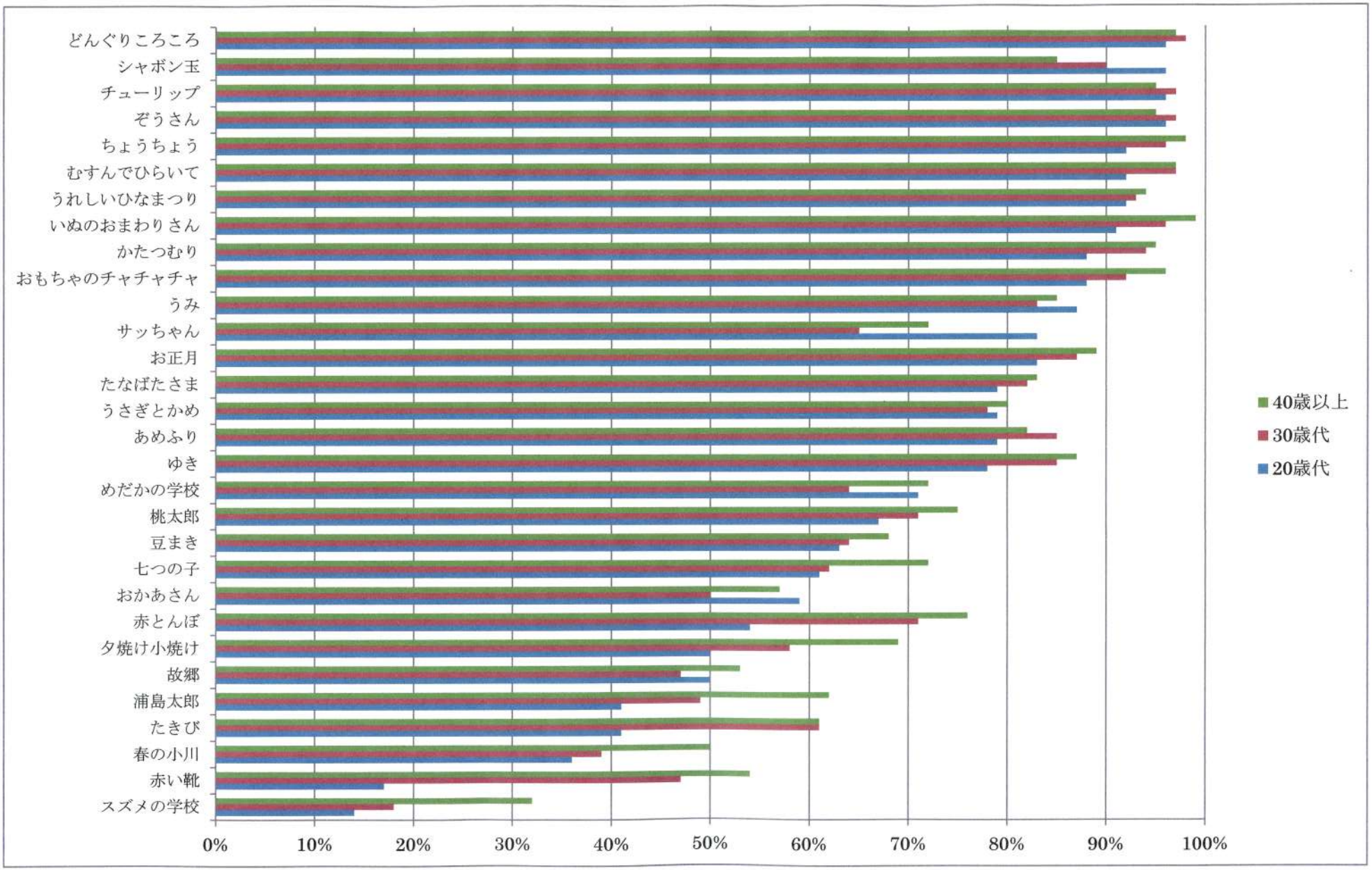

図 4.年代別にみる保護者が子どもに歌った経験がある割合

表 3. 保護者は子どもにできるだけ童謡や唱歌を聞かせたいと考えるか

	20 歳代	30 歳代	40 歳以上
非常にそう思う	35%	48%	58%
ややそう思う	50%	43%	39%
どちらとも言えない	11%	7%	2%
あまりそう思わない	4%	2%	1%
全くそう思わない	0	1%	0

表 4. 保護者が考える家庭で童謡や唱歌が歌われなくなってきた理由

新しい歌が次々に出てくるため、そちらの歌に関心が向く	65%(248 名)
保護者自身が童謡や唱歌を知らない	39%(149 名)
古くからある歌には子どもになじみのない言葉が使われている	34%(128 名)
幼稚園、保育所で教えない	18%(68 名)
子どもが童謡や唱歌を好まない	5%(17 名)
古くからある歌は、今の子どものリズムに合わない	2%(6 名)
その他	26%(98 名)

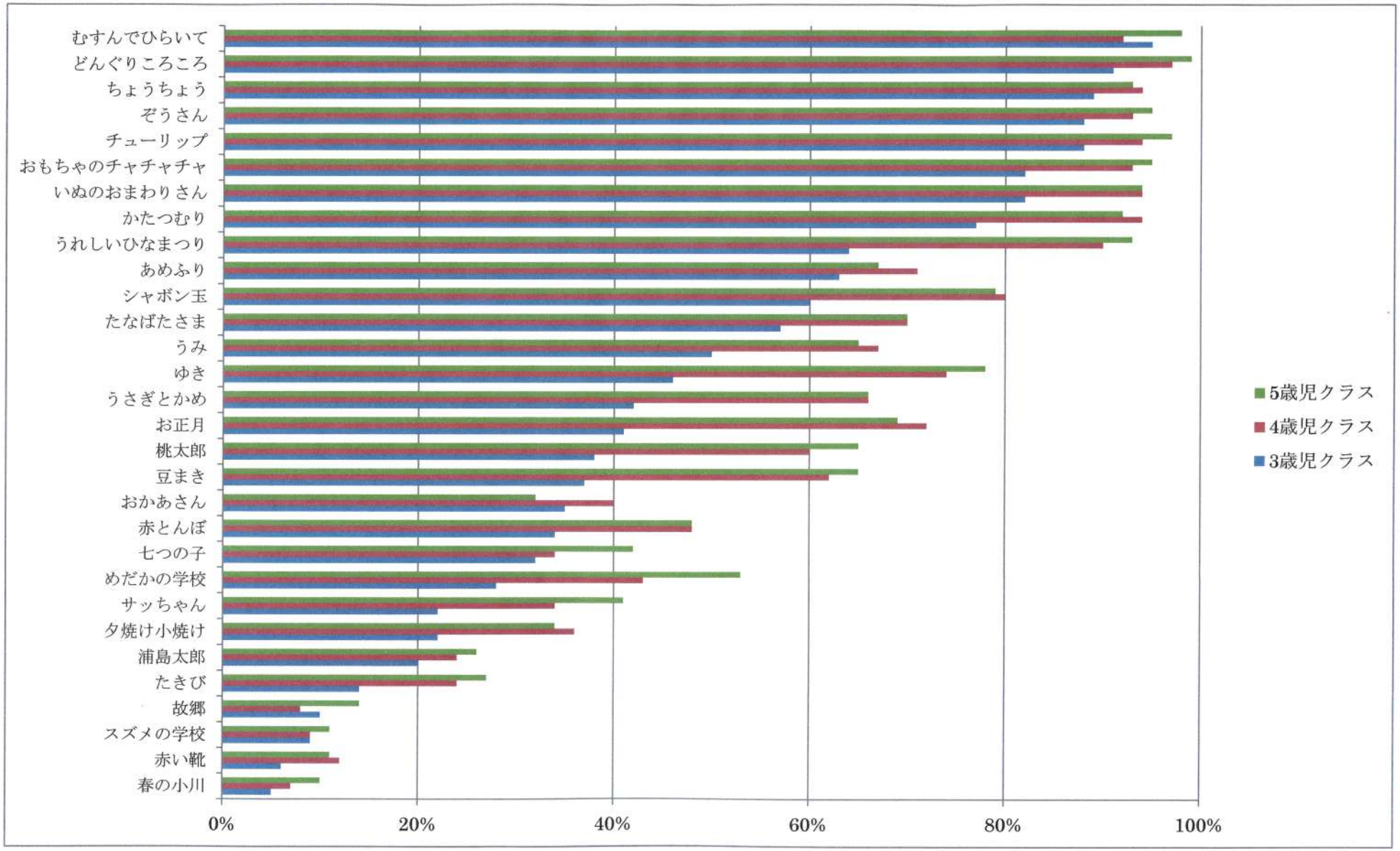

図 5.年齢別にみる子どもが歌を知っている割合

(注:写真, データ, グラフ等 研究内容の補足説明にご使用下さい。)

様式－10